

平成30年秋期 富岡第三地区推進連絡会要旨

1 日時

平成30年11月29日（木） 18:00～19:35

2 場所

富岡地域ケアプラザ

3 参加者

(地域側) 自治会等地域団体関係	48名
(支援チーム、その他行政側)	
区役所	13名
区社会福祉協議会、地域ケアプラザ	8名
合計	69名

4 意見交換要旨

「民生委員活動の中で感じること」について3名の民生委員から発表あり。

(1) 新任民生委員の苦悩と葛藤

【内容】

- ・東日本大震災の被災経験の中から人生観も変わり、ボランティア活動をはじめ、民生委員も引き受けることとなった。
- ・引き継ぎ書に書いていないことや、様々な苦情を受け付けることがあった。成績の上がないサラリーマンのように思っ落ちて落ち込んだこともあった。
- ・民生委員を孤立させないでほしい。見守ってくれていると感じさせてほしい。

(2) 民生委員活動の印象の異同

【内容】

- ・横浜市職員として民生委員活動の担当をしていた時は、得られる情報が限られていた。
- ・本人の困った感がない中での対応に非常に苦慮した。
- ・退職して民生委員となり、近隣等から得られるインフォーマルな情報に助けられることがあり非常に大切なものと感じる。うれしいこともあり、活動を続けている。

(3) 人と人との関わりあいの中で学ぶこと

【内容】

- ・時として民生委員の枠を超えた活動もあった。私がそこにいることで誰かが安心してくれればと思って一人の人間として対応した。
- ・社協のボランティア制度も整っておりありがたいことではあるが、机上の理想、理論だけでは対応できないこともある。今日、今、その瞬間に困っている人に対応する必要もあるが、感謝の言葉がついてくれば苦と感じないでやることもできた。
- ・個人情報扱いで区から情報を得られないことがあった。事例にもよるが、解決に向けて対応するように願いたい。

5 質疑応答

- 心こもった活動に感動した。民生委員の改選が控えており、皆様の留任を期待したい。
- 区の防災担当に発災時の要援護者の対応について質問したが、どうするのか回答がない。消防も同じ。どのように区は考えているのか？また、消防団との連携はどうしているか？
 - 192の単会の実情に応じて対応していくしかない。熊本は拠点の整備すらなされておらず大変な状況となった。横浜市は拠点の整備を進め、耐震化はほぼ完了した。拠点の整備とインフラの整備が行政の限界。消防団との連携については、拠点の訓練に参加してもらい連携を深めている。
- 民生委員の話に、高齢者をサロンに誘ったが、その子供に苦情を言われた事例があったが、その後はどうなったか？
 - 家族の了解が得られないということでそのまま。